

金属板保護フィルム商社の「城山」

設備増強、加工機能を強化

建材、小口向け販売拡大

意匠性金属板保護フィルムの販売、加工を手掛ける城山(本社・名古屋市中東区、社長・加藤隆介氏)は狭幅・広幅、長尺・短尺フィルムの一貫生産体制構築へ加工機能を強化する。加工、物流拠点のフィルム加工センター(FKC、名古屋守山区)に最新鋭のリワインドスリッター機(巻き替え切断設備)を導入し、来月から本稼働をスタート。加工難度が高い製品の能力、生産効率を高めて引き合いへの対応力を上げ、さらなる採用拡大につなげたい考えだ。



近く本稼働を始めるリワインドスリッター

同社は2010年に工事業に乗り出した。加工部を立ち上げ、大フィルムメーカーから型切断機を導入して加工原反(母材)を仕入れ、切断、巻き替えを行って短尺フィルム製品の短納期要請に対応している。コイルセッター型の事業モデルを構築して

着実に実績を伸ばすも含めた新たな需要家の開拓推進を狙って、中、狭幅・長尺製品の加工は、鋼板などで使用する広幅品と比較して加工難度が高い一方、加工残材の用途拡大、有効活用による歩留まり向上も期待できることから、戦略商品の一つに位置付けている。押出製品や伸銅のめっき用途などの狭幅需要の供給能力を増強するとともに、小口案件

新設備は5月末に設置を完了し、試運転を経て来月本稼働体制に移行する計画。導入に当たり、令和元年度ものづくり補助金制度を活用した。原反を狭幅サイズに

切断することにも、品質、作業効率が大きく向上する。直径500mm(長さ3千mm)×幅1400mmまでの通じて既存ユーザーへ原反を、1分当たり最のサービス強化、受注

大200mm加工できる間口拡大による新規ユーザー獲得を両立し、加工品比率を高めていきたい」としている。